

報道関係各位

北本市

kitamoto city

令和7年5月29日
北本市役所 市長公室
シティプロモーション・広報担当
秋葉 048-594-5505
koho@city.kitamoto.lg.jp

全国の自治体広報担当者等300人が北本市に集結 第62回全国広報広聴研究大会

北本市で初開催！埼玉県での開催は16年ぶり
(共催：公益社団法人日本広報協会、埼玉県、北本市)

広報広聴の今日的課題をテーマに、講演、パネルディスカッション、事例研究などを通じて広報広聴の在り方を考える、年に一度の全国規模の大会。1964(昭和39)年に東京都で第1回が開催され、毎年開催地を変えて開催しています。全国広報コンクールの受賞者をはじめ、全国各地の広報担当者(約300人)が参加し、意見交換、交流の場にもなっています。



写真データ提供可

第62回全国広報広聴研究大会 概要

大会テーマ「仲間づくりは、ここから。」

～広報について本気(マジ)で語り合う1日 in 埼玉・北本」

会場 北本市文化センター

対象 北海道から沖縄県まで
全国の自治体広報担当者等約300人(予定)

日時・カリキュラム 6月6日(金)

埼玉県内からは
28自治体57人が参加予定

10:30～10:55 開会式

10:55～11:30 全国広報コンクール表彰式(内閣総理大臣賞、総務大臣賞、日本広報協会会長賞、読売新聞社賞、BSよしもと賞)

埼玉県からは本庄市、草加市、狭山市、三芳町、久喜市が表彰

11:45～12:15 事例発表

・愛知県東浦町(広報紙町村部 特選 総務大臣賞)

・埼玉県本庄市(広報企画 特選 内閣総理大臣賞)

13:30～16:00 パネルディスカッション「激論！自治体広報～あなたはどっち派？～」

16:00～16:05 閉会式

備考

取材にお越しいただく際は、事前に担当までご連絡ください。大会後は出席者の交流会を、翌日はまちめぐりツアーを開催します！(詳細は添付のチラシをご覧ください)

パネルディスカッション「激論！自治体広報～あなたはどっち派？～」

登壇者が A 派・B 派に分かれて、全国の広報担当者が共感しやすいテーマに基づき、激論トークを行います。登壇者のみならず、会場出席者もスマートフォンでどちらかに投票やトーク内容へのコメントなどを送信し、実際に発言する機会を設け、参加者全員で考え、語り合います。見ている人が、「どちらも一理ある」と共感でき、広報の現場に戻ったときの参考になるようなパネルディスカッションを行います。

トークテーマ(予定)

やっぱり広報紙 vs これからはWeb中心 / 広報紙は外注 vs 内製 / 広報するのに全国の仲間づくりは必要 vs 不要 ほか

【パネリスト】



魅力発信課
茨城県小美玉市
代々城 衣里

広報・シティブロモーション担当6年目。シティブロモーション活動としての広報紙特集制作、レイアウトリニューアル、庁内ルールの見直しなどの包括的な広報紙改革や公式サイトリニューアルに取り組む。地元クリエイターと共創した漫画特集「実は身近なSDGs」は地域内外から大きな反響を得て、全国広報コンクール広報紙市部で令和4年入選。翌年制作した「エシカル消費」特集は令和5年入選2席を受賞。



埼玉県草加市
住宅政策課
安高 昌輝

行政情報が伝わっていないことに危機感を覚え、広報課1年目で広報紙フルリニューアルを決意。思いを形にした「特集リノベーションまちづくり」が埼玉県広報コンクール(広報紙・市部)第1席。情熱や実績が認められ、異動してわずか7カ月で、デザイン・カラー・発行回数・紙質を変更する広報紙フルリニューアルを達成。今年の広報コンクールでは、広報紙・市部門と映像部門のダブルで埼玉県代表に選出。2024年地方公務員アワード受賞。



埼玉県北本市
市長公室
秋葉 恵実

平成30年から広報担当。デザイン・編集経験ゼロからスタートし、令和3年度に広報紙の企画・取材・編集・デザイン全てを職員が行う内製化を開始し、編集委託予算600万円を削減。令和4年埼玉県広報コンクールで特選(一枚写真)、第一席(広報紙・市部)に選ばれ、令和5年全国広報コンクールで内閣総理大臣賞を受賞、当時の岸田総理大臣に謁見。令和6年全国広報コンクール入選。株式会社PR TIMES公認プレスリリースエバンジェリスト。



合同会社
LOCUS BRIDGE
最高執行責任者兼代表
林 博司

埼玉県北本市職員として広報5年、シティブロモーション・ふるさと納税を3年担当。「財政状況伝えるマン」で全国広報コンクール広報紙・企画部門入選。シティブロモーション「&green」で北本市を17年ぶりの転入超過にし、全国広報コンクール内閣総理大臣賞受賞。3年連続ふるさと納税埼玉県寄付額1位。市町村アカデミー「広報の効果的実践」講師を担当。



埼玉県ときがわ町
総務課兼選挙管理委員会
事務局
保坂 良輔

2017～2023年に広報を主担当。当時は、交通安全や自衛隊も主担当、選挙や自治会やコミュニティを副担当、規程審査委員や総務課選定委員や青少年相談員や消防団も兼ねる「仕事のつぼ」。ワンオペ・兼任・DTPにめげず誰にも頼らず磨き上げた広報は、独自の雰囲気を出し、尖りつつも、町民への影響も大きい。1年目に全面刷新し、令和4・5・6年全国広報コンクール広報紙・町村部入選。BSよしもと賞を置き土産に無念の異動。



パブリシシク(株)
取締役
池田 次郎

2009年、川西市役所入庁と同時に広報課へ配属。7年間の在任中に県広報コンクールで6年連続広報紙部門特選、写真部門では3年連続特選を受賞。全国では、広報紙、組写真、企画、映像部門で、読売新聞社賞などを受賞。異動後は、NOMA や日本広報協会、地方自治体などのセミナーに登壇するほか、撮影とデザインのYouTubeチャンネル「Photo & Design」で映像制作を続ける。2024年地方公務員アワード受賞。2025年3月に川西市退職、4月から現職。



奈良県生駒市
広報広聴課
村田 充弘

広報・シティブロモーション担当13年目。広報紙や動画の制作、PRサイト・SNSの運営、住民と協働した情報発信など多岐にわたる広報業務に携わる。担当する市民PRチーム「いこまち宣伝部」がグッドデザイン賞、PRサイト「グッドサイクルいこま」が自治体広報DXアワードを受賞。シティブロモーションの成果の可視化や効果測定にも力を入れる。2007年新卒入庁。教育総務課を経て現在は広報広聴課の課長補佐を務める。



奈良県王寺町
議会事務局
村田 大地

2015～2022年広報担当。月2回発行の広報紙リニューアル・内製化、町公式サイト、各種SNS立ち上げ、イベント企画等、町の広報基盤を整備し全国広報コンクール入選。一連の「広報」の取組は住民アンケート施策満足度1位・約90%が広報紙を愛読する結果に。2023年より議会事務局に出向し、リニューアルした「議会だより」は2年連続で全国議会広報コンクール入選。広報改革の事例はマニフェスト大賞で優秀賞を受賞した。

【モデレーター】



日本広報協会事業部長
兼調査・企画部長
藤本 勝也

1990(平成2)年に日本広報協会に入職。政府広報誌「時の動き」「Cabinet」の編集デスクを経て、現在は広報関係の調査・研究、広報効果測定、コンサルティングなどを担当。また、各種広報セミナー、全国広報広聴研究大会、全国広報コンクールなど、自治体広報担当者向けの研修・表彰事業の企画・運営も担当している。

参加方法

専用申込書(日本広報協会ホームページに掲載)

に必要事項を記入し、公益社団法人日本広報協会へファクシミリで提出。日本広報協会会員団体であれば、1団体1人まで無料で参加できます(2人目以降は1人あたり参加費7,370円。会員外は1人12,100円)。

